

《特別講演》

岐阜市の環境への取り組みについて

岐阜市長 細江茂光

1 岐阜市の市勢

人口（平成 12 年 10 月 1 日現在国勢調査結果）

総人口：402,751人 世帯数：146,350世帯

平均気温：15.8度 年間降水量2,285mm（平成15年中）

岐阜市は、道三、信長が天下統一を夢見た岐阜城を頂く緑豊かな金華山、1300年の歴史を誇る鶺鴒で名高い清流長良川がその傍らを流れる歴史文化と自然環境に恵まれた県都として発展してきた。

16年度には、「岐阜市総合計画（ぎふ躍動プラン・21）を策定し、「日本一元気な県都」としてさらに発展させていくため、「安心して暮らせる都市」、「便利で快適な都市」、「活力のあふれる都市」、「人生を楽しむ都市」、「多様な地域核のある都市」、の5つを将来都市像を基本方針として積極的にまちづくりに取り組んでいる。



2 岐阜市の環境

平成14年9月に、市民、事業者、行政が一体となって「環境と調和する、人にやさしい都市岐阜」を目指していく「環境都市宣言」を行った。

岐阜市のシンボルである金華山には原生林が残り、麓の達目洞を流れる逆川には絶滅危惧種のヒメコウホネが生息し、このヒメコウホネの保全にボランティア団体が、行政と協働して保全活動を続けている。また、岐阜の豊かな環境を保全するため、「地下水保全条例」や「自然環境の保全に関する条例」を制定している。

平成16年3月に岐阜市北部で産業廃棄物不法投棄事案が発覚した。市は、迅速、情報公開、行政と市民との協働をキーワードに「岐阜モデル」による解決を目指している。

この事案をふまえつつ、岐阜市総合計画の中で、「環境への取り組み」は「便利で快適な都市」に位置づけられ、岐阜市の環境政策の基礎となる「岐阜市環境基本条例（仮称）」の策定に向けて、市民、事業者、有識者によるワーキングチームで検討をしている。

また、市民が環境への思いを新たに、環境について「知る」、「体験する」、「考える」機会とする、「岐阜まるごと環境フェア」を開催するなど、自然環境の保全と、地球温暖化防止や循環型社会形成に向けて、様々な取り組みを進めている。



金華山・長良川



ヒメコウホネ

3 上下水道事業の先進的取り組み

岐阜市は、旧環境庁が選定した名水百選にも選ばれている清流長良川の伏流水を水道水源として利用しており、市民はおいしい水を享受している。

水環境の保全のために下水道事業の取り組みは大変重要である。岐阜市では昭和9年に当時全国では画期的であった分流式下水道として公共下水道事業に着手し、現在も整備を進めているところである。

平成6年には、汚水処理に伴い発生する汚泥の再利用を図るため焼成レンガ製造施設を建設し「ハイカラレンガ」として販売を始めた。現在、岐阜市内の終末処理場から発生する廃棄物の焼却灰1020トンの全量を焼成レンガの材料として使用しており、廃棄物ゼロを達成している。

各終末処理場ではリン除去能力を向上させ放流水質を改善している。また新たな取り組みとして汚泥焼却灰に含まれるリンを抽出し再利用することを検討している。今後も環境、資源問題の解決に資する取り組みを進めていく。